

モニタリング班（第1班）の応援状況について

文部科学大臣の要請を受け、福島県への環境モニタリング専門家等の派遣を以下のとおり行った。

1 派遣人員 2名

○モニタリング班：山田^{やまだ}裕平^{ゆうへい} 主幹（中部総合事務所 生活環境局 環境・循環推進課廃棄物担当）

- ・モニタリング車などに乗車して、所定のコースを巡回し現場測定や試料採取を行う。
- ・被ばく量：96 μ Sv/6日

○分析班：田中^{たなか}卓実^{たくみ} 室長補佐（衛生環境研究所 大気・地球環境室）

- ・モニタリング班が収集した試料の放射能等の分析を行う。
- ・被ばく量：42 μ Sv/6日

※【被ばく量の参考】通常の湯梨浜町（衛生環境研究所）での被ばく量：約530 μ Sv/年
一般公衆の線量限度：1,000 μ Sv/年
胸のx線集団検診（1回）：50 μ Sv

2 派遣期間

3/27～4/1（実働期間）※今後の予定は未定。なお、後続3班（2名編成）を準備済み。

3 活動概要

- モニタリング班は手分けして3つのコース（資料参照）を調査していたが、モニタリング班に従事した山田主幹は、派遣期間中に2つのコース（オレンジ・緑）の調査を行った。
- 調査は、コースに従って線量の現場測定や草、土壌、大気粉じん等の環境試料を採取した。採取した環境試料は福島県原子力センター福島支所に持ち帰り分析班に引継いだ。
- 田中室長補佐は、分析班としてモニタリング班が採取した環境試料の放射能分析を担当した。
- 福島県原子力センター福島支所には、放射能分析（放射性ヨウ素や放射性セシウムなどの分析）を行うゲルマニウム半導体検出器が2台有るが、装置の汚染を防ぐため高濃度用と低濃度用に使い分けて使用している。
- 派遣期間は、ポケット線量計で被ばく量を測定したが、山田主幹は96 μ Sv、田中室長補佐は42 μ Svの被ばく（現地滞在中の6日半程度の期間において）があったが、それぞれ胸部レントゲン2回及び1回の被ばくに相当し、大きな被ばくはなかった。

4 器材等

環境モニタリングに使用する
モニタリング車（1台）（防災局所管）



5 支援物資

環境モニタリングに使用する以下の消耗品を提供している。（防災局所管）

- ・綿くつ下（170 足）
- ・綿手袋（456 組）
- ・チオテック手袋（463 組）
- ・吸収缶（マスクのフィルター）（40 コ）

6 連絡窓口

福島県原子力災害対策本部 放射線班